

令和6年度

業務実績・決算の概要

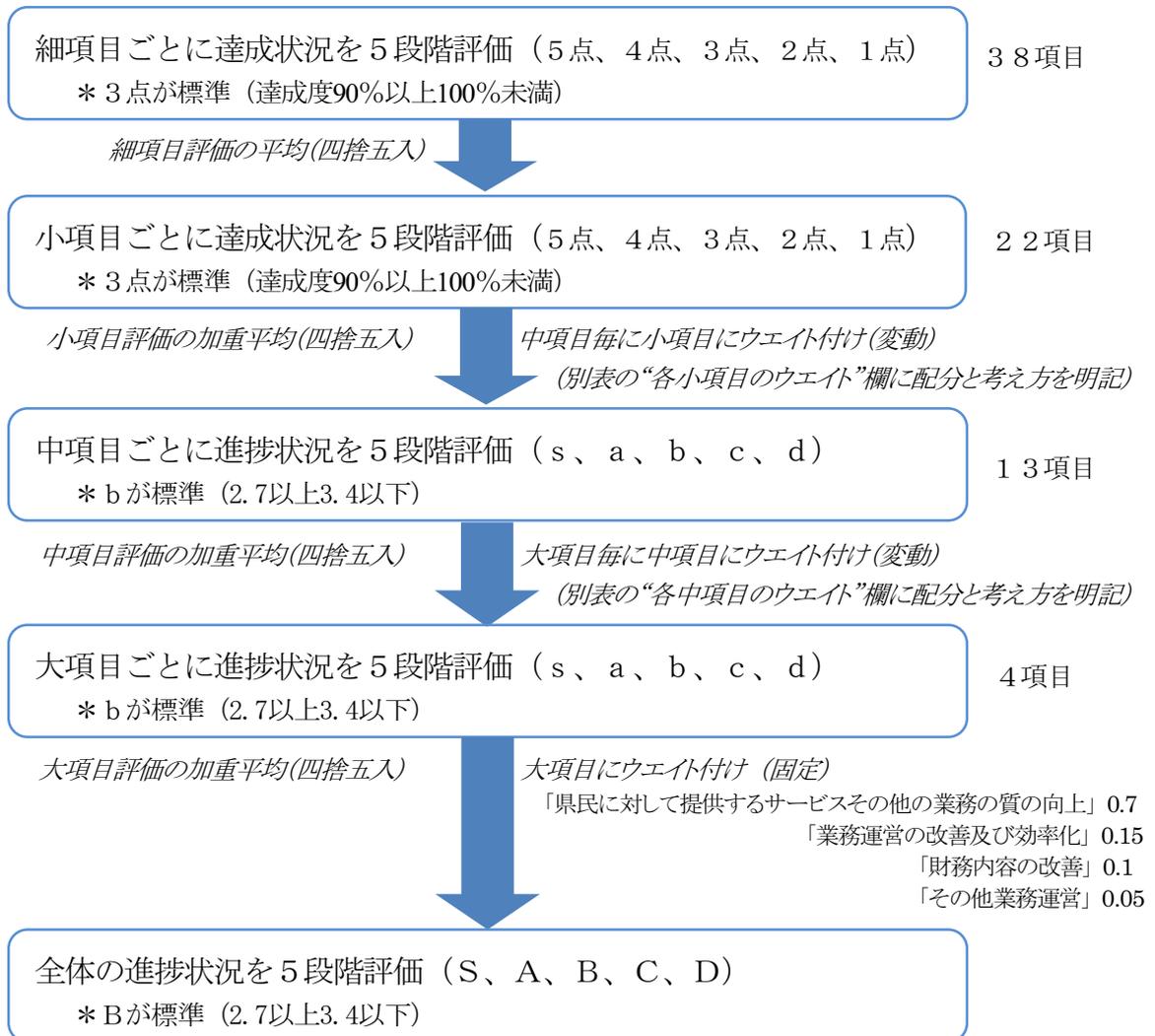


©2023 Yamaguchi ITI

令和6年度業務実績

1 自己評価結果

(1) 自己評価の方法



(2) 自己評価の結果

◆全体的な状況

中期計画に係る令和6年度の全体評価は、B評価：3.4ポイント、進捗は「概ね順調」であった。

4つの大項目のうち、ウエイトが最も重い大項目【県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上】は、構成する3つの中項目のうち『産業力強化に向けたイノベーションの創出』はa「順調」、『中小企業の「底力」の発揮に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進』及び『「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化』は、b「概ね順調」であり、全体的にはa「順調」となった。

残る3つの大項目については、【業務運営の改善及び効率化】及び【財務内容の改善】は、b「概ね順調」であり、【その他業務運営】は、a「順調」であった。

その結果、全体評価は”B”、進捗は「概ね順調」となった。

◆評定の概要

別紙1（本書 p. 21-22）のとおり

2 令和6年度業務の評価（概要）

【大項目】第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

（評定：a 大項目加重平均値：3.5）

中項目	評定	評定の理由	報告書
小項目		主な取組	
細項目			
第1-1 産業力強化に向けた新たなイノベーションの創出	a	中項目加重平均値：4.2	—
第1-1 (1) 研究開発・事業化を支援する体制の強化	4	年度計画を十分達成 『客観性を確保するための指標（別紙2、本書p.23に添付）により評価』 ✓受託事業の実施すべき項目を達成した。 【評点：3】 ✓第1-1 (3) [イノベーションの推進による提案公募型事業の獲得件数] 及び [イノベーションの推進による成長産業分野の事業化件数] の評点の平均値が「5」である。 【評点+1】 新 取組体制を強化するため、イノベーション推進センターに「オープンイノベーション推進チーム」、プロジェクト推進部に「カーボンニュートラル推進室」を設置 ・イノベーション推進センター、宇宙データ利用推進センター、水中ロボット関連事業推進チーム、カーボンニュートラル推進チーム、IoTビジネス創出支援拠点、廃棄物3R事業化チームを継続運営、自動車分野に係る取組を継続	12
第1-1 (2) 産学公金や企業間連携による研究開発・事業化の促進	4	年度計画を十分達成 『客観性を確保するための指標（別紙2、本書p.23に添付）により評価』 ✓3つの活動の実績が、それぞれ概ね目安程度にある。 【評点：3】 ✓費用対効果が「1.5」以上である。 【評点+1】 ・イノベーション推進センター、宇宙データ利用推進センター、水中ロボット関連事業推進チーム、カーボンニュートラル推進チーム、IoTビジネス創出支援拠点、廃棄物3R事業化チーム、プロジェクト管理室を中心とした取組により、新たに39組の研究開発グループが始動、45件の提案公募型事業に採択	23

・提案公募型事業の獲得支援状況 () 内は新規件数

<イノベーション推進センター>

R1	R2	R3	R4	R5	R6
12件 (12件)	39件 ^{※1,3} (29件 ^{※1,3})	33件 ^{※2,3} (27件 ^{※2})	32件 ^{※2} (23件 ^{※2})	34件 ^{※6} (23件 ^{※7})	41件 (27件 ^{※8})

<宇宙データ利用推進センター>

R1	R2	R3	R4	R5	R6
6件(6件)	5件(2件)	2件(1件)	9件(8件)	7件(5件)	4件(4件)

<IoTビジネス創出支援拠点>

R1	R2	R3	R4	R5	R6
1件(1件)	1件 ^{※5} (1件 ^{※5})	2件 ^{※5} (1件)	1件(1件)	4件(3件)	3件 ^{※9} (3件 ^{※9})

<カーボンニュートラル推進チーム>

R5	R6
5件(5件)	7件(7件)

<水中ロボット関連事業推進チーム>

R5	R6
1件 ^{※2} (1件 ^{※2})	1件(1件)

<廃棄物3R事業化チーム> <プロジェクト管理室>

R6
1件(1件)

R4	R5	R6
4件(2件)	3件(1件)	4件 ^{※3} (3件 ^{※3})

※1 うち2件はR&Dラボ推進センターと協働、※2 うち1件はR&Dラボ推進センターと協働、※3 うち1件はIoTビジネス創出支援拠点と協働、※4 うち2件はイノベーション推進センターと協働、※5 うち1件はイノベーション推進センターと協働、※6 うち3件は技術支援部と協働、※7 うち1件は技術支援部と協働、※8 ステップアップによる新規課題5件を除く、※9 うち1件はプロジェクト管理室と協働

第1-1 (3) 数値目標

5

小項目平均：5.0

—

ア イノベーションの推進による提案公募型事業の獲得件数
21件

5

年度計画を十二分に達成
達成度 214%

29

◎ 45件

<内訳>

イノベーション推進センター	27件 ^{※1}
宇宙データ利用推進センター	4件
IoTビジネス創出支援拠点	3件 ^{※2}
カーボンニュートラル推進チーム	7件
水中ロボット関連事業推進チーム	1件
廃棄物3R事業化チーム	1件
プロジェクト管理室	3件 ^{※3}

※1 ステップアップによる新規課題は除く

※2 うち1件はプロジェクト管理室と協働

※3 うち1件はIoTビジネス創出支援拠点と協働

<p>イ イノベーションの推進 による成長産業分野の事業 化件数 15件</p>  <p>大型車両用酸素ステーション 向け配管の溶接技術</p>  <p>脳卒中患者向け遊動機能を 有したリハビリ装具継手</p>  <p>インスタントこんにやく麺</p>	<p>5 年度計画を十二分に達成 達成度 160%</p> <p>◎ 24件</p> <p><内訳></p> <p>イノベーション推進センター (環境・エネルギー推進チーム) 7件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型車両用酸素ステーション向け配管の溶接技術、酸素製造用常圧型アルカリ水電解槽 他 <p>(医療・ヘルスケア推進チーム) 9件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中患者向け遊動機能を有したリハビリ装具継手、高齢難聴者向けコミュニケーション端末 他 <p>(バイオ推進チーム) 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インスタントこんにやく麺「自然薯らーめん」、竹洗剤を使用した「災害時用洗濯パック」 <p>(オープンイノベーション推進チーム) 1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属加工技術と日本古来の芸術を融合したアウトドア用品の開発 (焚火台) <p>宇宙データ利用推進センター 1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工衛星画像を活用した水道管漏水調査 <p>カーボンニュートラル推進チーム 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半導体フォトマスク作成用の化学材料の開発、事業化 他 <p>I o Tビジネス創出支援拠点 1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル活用による野犬対策強化事業に係る遠隔捕獲システム <p>廃棄物3R事業化チーム 1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鯨油キャンドル「くじらの灯」 	<p>29</p>
---	---	-----------

<p>第1-2 中小企業の「底力」の発揮に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進</p>	<p>b 中項目加重平均値：3.2</p>	<p>—</p>
---	-----------------------	----------

<p>第1-2 (1) 研究開発の推進とその成果の普及</p> <p>新やまぐち美味しい日本酒創出事業</p> <p>酒造品質に影響を及ぼす原料米の溶解性を製造前に予測する技術を確認する。</p> 	<p>3 年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づく実用化研究は概ね順調 ・第4期技術戦略の策定 ・実用化研究とその成果の普及に向けた取組 <table border="1" data-bbox="831 1787 1362 1868"> <tr> <td>R6</td> <td>R5</td> </tr> <tr> <td>5テーマ※実施</td> <td>8テーマ実施</td> </tr> </table> <p>※新「やまぐち美味しい日本酒創出事業」のテーマを含む</p>	R6	R5	5テーマ※実施	8テーマ実施	<p>31</p>
R6	R5					
5テーマ※実施	8テーマ実施					



技術報告会(産業技術センター)

- ・研究報告書等の刊行、ホームページ、技術発表会等により研究開発成果の積極的発信
- ・技術報告会は、やまぐちブランド技術研究会との共催により開催(電子技術関連、材料技術関連の2回開催)

- ・企業等からの共同研究・受託研究の実施状況

	R6	R5
共同研究	7テーマ	9テーマ
受託研究	9テーマ	9テーマ

第1-2(2) 知的財産の取得と活用

3

年度計画を概ね達成

34

- ・研究開発や技術支援等による成果の速やかな知的財産化

職務発明2件、特許出願1件(うち共同出願1件)

項目	R6	R5
職務発明	2件	4件
特許出願 (うち共同)	1件 (1件)	5件 (3件)
権利の譲渡	6件	0件
権利の処分*	14件	8件
使用許諾	12件	11件

※期間満了、放棄及び審査請求せず

新知的財産の管理(維持・処分・譲渡)に関する運用方法を知的財産管理指針として策定

- ・弁理士を交えた知財相談会
- ・未利用特許の活用を目的とした発表会への参加

第1-2(3) 企業の技術革新の促進

3

小項目平均: 3.0

-

ア 各種技術研究会活動の活性化

3

年度計画を概ね達成

35



セミナー(現地とオンライン併用によるハイブリッド開催)

- ・やまぐちブランド技術研究会の継続的な活動
- ・やまぐち3Dものづくり研究会の活動による研修、バーチャル3Dものづくり支援センターによる3Dプリンターを用いた3D造形支援
- ・衛星データ解析技術研究会による研究会・技術セミナー等の開催(12回)、提案公募型事業応募支援(採択4テーマ)

		<ul style="list-style-type: none"> ・スマート★づくり研究会による研究会・ワークショップ等の開催（44回）、提案公募型事業応募支援（採択3テーマ） ・環境・エネルギー研究会によるカーボンニュートラル関連のセミナー開催 ・水中ロボット技術研究会による研究会・ワークショップの開催（8回）、提案公募型事業応募支援（採択1テーマ） 									
	<p>イ 研究開発計画策定や資金獲得の支援</p>	<p>3 年度計画を概ね達成</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の技術革新計画の承認支援 <table border="1" style="margin: 5px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">R6</td> <td style="text-align: center;">R5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 企業</td> <td style="text-align: center;">0 企業</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・国等の提案公募型事業（競争的資金）獲得の積極的支援（R6 年度新規獲得分） <table border="1" style="margin: 5px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">R6</td> <td style="text-align: center;">R5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">46 件</td> <td style="text-align: center;">42 件</td> </tr> </table> <p>(R6 年度の主な獲得支援事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇情報処理・サービス・製造産業振興研究開発等事業費補助金（経産省） ◇みちびきを利用した実証事業（内閣府） ◇海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業（国交省） ◇やまぐち産業イノベーション促進補助金、加速化補助金（山口県） </div>	R6	R5	2 企業	0 企業	R6	R5	46 件	42 件	40
R6	R5										
2 企業	0 企業										
R6	R5										
46 件	42 件										
<p>第1-2 (4) 産業を支える人材の育成</p>	<div style="text-align: center;">  <p>セミナーの開催</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>イベントへの出展 (やまぐちJOBフェスタ)</p> </div>	<p>3 年度計画を概ね達成</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・技術動向や課題解決手法等に関するセミナー等の開催（計34回） ・県イベント「ワークショップコレクション in やまぐち」及び「やまぐちJOBフェスタ」に出展、夏休みジュニア科学教室の開催 ・社会現場での学習及び実習等を目的とし、高校生及び高専生（留学生）に研修を実施 </div>	43								

第1-2(5) 数値目標	4	小項目平均: 3.7	—
ア 特許等の共同出願、使用許諾及び譲渡件数 16件	4	年度計画を十分達成 達成度 119% <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">○ 19件</p> <p><内訳> 特許等共同出願 1件 使用許諾 12件 譲渡 6件</p> </div>	45
イ 研究開発に関する提案公募型事業を獲得し、実施した件数 9件	2	年度計画はやや未達成 達成度 89% <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">8件</p> <p><内訳> Go-Tech、既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・FS事業、公設工業試験研究所等が主体的に取り組む共同研究(JKA)、やまぐち産業イノベーション促進補助金事業3件、半導体・蓄電池産業集積強化事業(部材開発等推進)、YMF G地域企業助成基金</p> </div>	45
ウ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数 10件 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;">日用品に生まれ変わった陶器</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;">トラフグの皮を活用した味噌の商品</div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;">チタン製カード</div>	5	年度計画を十分達成 達成度 210% <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">◎ 21件</p> <p><内訳> 技術支援 21件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業用品から日用品に生まれ変わった小野田の陶器 ・トラフグの皮を活用した味噌の商品開発支援 ・酸化マグネシウムフィルター向け耐水処理技術の開発支援 ・近赤外線遮蔽フィルターの開発支援 ・アモルファス酸化タングステン紫外線遮蔽剤の開発支援 ・チタン製カードへの微細彫刻加工支援 ・未利用部位を活用した鯨油キャンドルの製造支援 ・高齢難聴者向けコミュニケーション端末の開発 ・シカ捕獲用囲いワナの強度及び剛性の評価 ・搬送用ジグの3D-CADデータ作成支援 ・リハビリ治療器具用継手の開発支援 ・魚醤油の商品開発支援 ・テレビ接続型・遠隔コミュニケーション端末 ・セカンドオピニオン・遠隔カンファレンスシステム ・操作を必要としない携帯型・遠隔会話タブレット ・訪問オンライン診療用・携帯型タブレット ・医療DX対応電子処方箋システム ・ハイブリッドクラウド型電子カルテシステム ・人工衛星画像を活用した水道管漏水調査サービスの開発支援 ・遠隔捕獲システムの開発 ・湯戻りの速い乾燥こんにやく麺の開発支援 </div>	46

第1-3 「中核的技術支援拠点」 としての更なる機能強化	b	中項目加重平均値：3.0	—
第1-3 (1) 技術的課題の解決に向けた研究開発・技術支援	3	小項目平均：3.0	—
ア 基礎研究	3	年度計画を概ね達成 ・計画に基づく基礎研究6テーマは、概ね順調	48
イ 技術相談  サテライト窓口 (周南市)	3	年度計画を概ね達成 ・Web会議システムを利用した「技術相談できる機会」の充実 ・研究員による新規及び巡回企業訪問 ・サテライト窓口の継続的運用	50
第1-3 (2) 企業ニーズに対応した技術支援サービス	3	小項目平均：3.0	—
先端的な試験研究機器の計画的な整備とその活用  アミノ酸分析装置  熱分析システム(DSC)	3	年度計画を概ね達成 ・企業のニーズを反映した機器整備 (2 機器) ・技術支援サービス向上に必要な機器整備 (新規・更新・増設：20 機器) ・バーチャル3Dものづくり支援センターの運用 (利用実績：22 社、61 件、6,842 千円) 新 J I S等の規格で評価方法が規定されておらず、適切な性能評価が難しい製品等について、その性能の明示に向けた評価方法の確立のための取組を実施 (製品評価支援事業) → R6年度は、3テーマを実施	52
<p style="text-align: center;">新 製品評価支援事業</p>  <p style="text-align: center;">県内企業 ← 連携 → 産業技術センター</p>			

技術支援サービスの検証と充実



3 年度計画を概ね達成

55

- ・技術支援活動サービスの満足度が97%以上
- ・技術支援サービスを企業が受ける目的の分析

<技術相談> 「製品の品質評価」、「基礎研究」、「新製品の開発」及び「トラブル対策」等多様な目的で利用される

<開放機器> 「製品の品質評価」、「新製品の開発」及び「基礎研究」で8割強を占める

<依頼試験> 「製品の品質評価」が7割を占める

ア 開放機器・依頼試験

3 年度計画を概ね達成

56



機器紹介動画

<開放機器>

- ・計画的な機器の保守・校正を継続的に行い、開放機器の信頼性を確保
- ・「開放機器一覧」の更新と、継続的な配布
- ・利用件数及び利用金額ともにやや増加

年度	R6	R5
利用件数(件)	3,023	2,806
利用金額(千円)	18,227	17,820

- ・機器の紹介動画を作成、ホームページやYouTube等SNSで公開

<依頼試験>

- ・依頼試験項目にない試験は、オーダーメイド試験により柔軟に対応
- ・依頼試験の件数は微減、金額は減少、うちオーダーメイド試験の利用件数及び利用金額は減少

年度	R6	R5
利用件数(件)	572	575
利用金額(千円)	14,183	15,848
うちO.M.※件数(件)	126	172
うちO.M.金額(千円)	10,260	12,849
O.M. 件数	22%	30%
割合	割合	割合
	72%	81%

※ O.M. : オーダーメイド試験



万能材料試験機による強度試験

イ 受託研究・共同研究

3 年度計画を概ね達成

58

- ・企業等からの受託研究・共同研究の実施状況
(開始時期、研究期間の柔軟な対応)

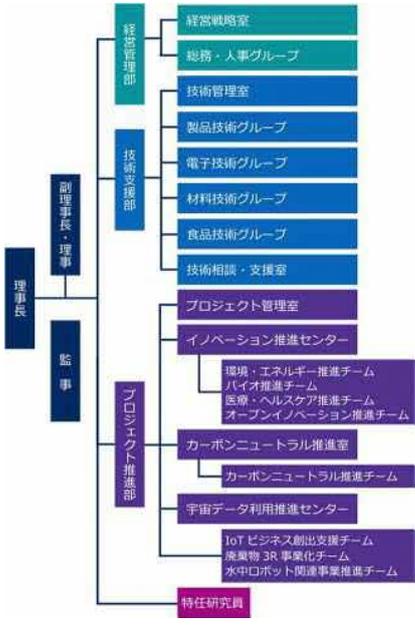
項目	受入れ 件数	うち、年度途中 に開始するもの	うち、複数年度 にまたがるもの
受託研究	9件	8件	1件
共同研究	7件	7件	3件

<p>ウ 技術者研修</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者受入研修 4社 6名 (R5年度 1社 1名) ・職員派遣研修 なし 	<p>59</p>									
<p>エ 新事業創造支援センターの効果的な活用</p>  <p>新事業創造支援センター</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進を図るために、パンフレット等を活用したPRを継続 ・技術革新計画承認企業に対する減免制度運用 (制度利用 2社・2室) ・産学連携料金 (減免措置) の適用 (制度利用 3社・5室) <p>・R6年度末入居状況 (年度末の状況)</p> <table border="1" data-bbox="823 786 1358 909"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R6</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入居企業数</td> <td>6社</td> <td>6社</td> </tr> <tr> <td>入居室数/12室</td> <td>7室</td> <td>7室</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">※年度中の入退去あり</p>	年度	R6	R5	入居企業数	6社	6社	入居室数/12室	7室	7室	<p>59</p>
年度	R6	R5										
入居企業数	6社	6社										
入居室数/12室	7室	7室										
<p>第1-3 (3) 関係機関等との連携の推進</p>   <p>MOU (覚書) に基づく産業交流 (上: 産業技術センター見学、 下: 日台産業交流フォーラム)</p>  <p>附属書に基づく防衛装備庁 艦艇装備研究所での実験</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学、国公設試、やまぐち産業振興財団や金融機関等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・山口大学、やまぐち産業振興財団との「地域の産業振興及び人材育成に関する包括的連携・協力に関する協定書」に基づく連絡協議会 ・県内外の公設試との連携促進 (会議等) ・民間試験機関との補完関係 ・知財相談窓口設置 ・R5年度に締結したやまぐち産業振興財団、台湾電子設備協会、工業技術研究院機械與機電系統研究所 (台湾) と半導体産業に関するMOU (覚書) に基づく産業交流の実施 ・R5年度に締結した防衛装備庁艦艇装備研究所との個別附属書に基づき、民生利用を目的とした2テーマの研究に関する実験を実施 	<p>61</p>									

<p>第1-3(4) 積極的・戦略的な情報発信</p>  <p>マスコットキャラクターを用いた広報活動(展示会ブースでの活用)</p>  <p>ジュニア科学教室(七宝焼き)</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>新産業技術センターの広報活動の方向性を定めるための広報戦略策定に係る調査や関係機関へのヒアリング等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルのマスコットキャラクターを用いた広報活動の継続 ・刊行物(4種類)を発行し、ホームページへの掲載や報告会・展示会等を通じて広く配布 ・電子化(PDF)した研究報告書のホームページ及びJ-STAGEへの掲載 ・機器活用事例パネルの作成・掲示(2機器) ・技術報告会の開催(2回) ・SNSを活用した動画配信を含む情報発信 ・県イベント「ワークショップコレクション in やまぐち」及び「やまぐちJOBフェスタ」に出展、夏休みジュニア科学教室の開催(再掲) 	<p>66</p>
<p>第1-3(5) 数値目標</p>	<p>3</p>	<p>小項目平均: 2.7</p>	<p>—</p>
<p>ア 技術相談件数 4,180件</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成 達成度 97%</p> <p>4,040件</p>	<p>69</p>
<p>イ 開放機器・依頼試験の利用件数 3,740件</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成 達成度 96%</p> <p>3,595件</p>	<p>69</p>
<p>ウ 受託研究・共同研究の実施件数 19件</p>	<p>2</p>	<p>年度計画はやや未達成 達成度 84%</p> <p>16件</p>	<p>69</p>

【大項目】第2 業務運営の改善及び効率化

(評定：b 大項目加重平均値：3.2)

中項目 小項目 細項目	評定	評定の理由 主な取組	報告書
<p>第2-1 機動性の高い組織体制の確保</p>  <p>組織図</p>	<p>4</p>	<p>年度計画を十分達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議の開催等による情報共有と意思統一 ・経営委員会の定期的開催による、理事長の迅速な意志決定 ■成長産業の育成・創出を目指す各種プロジェクトを強力に推進するための組織改編 ＜廃止＞R&Dラボ推進センター、3Dものづくり支援チーム ＜設置＞カーボンニュートラル推進室(プロジェクト推進部)、オープンイノベーション推進チーム(イノベーション推進センター) ・業務状況に応じた柔軟な人員配置 ・事務決裁規程の見直し(権限委譲)による決裁事務の効率化、迅速化 	<p>70</p>
<p>第2-2 効果的・効率的な業務運営</p>  <p>業務のデジタル化・省力化 (例) ノンプログラミングデータベースシステムを用いた電子帳簿管理システム</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営資源の配分見直しを実施(機能維持のための機器・緊急を要する設備の修繕・更新) ・業務のデジタル化・省力化 ①■新時間外勤務集計システムの作成及び運用 ②「県内出張の旅費計算」及び「ETCカード運用業務」に係る業務を自動化するシステムの検討 ③■新電子帳簿管理システムの作成及び運用 ④■新公文書管理のための簿冊管理システムの作成及び運用 ⑤■新財務会計システムの機能改修による経費支出関連書類の電子化 ⑥■新取引業者からの請求書の電子データ化の推進 ・業務状況に応じた柔軟な人員配置(再掲) ・事務決裁規程の見直し(権限委譲)による決裁事務の効率化、迅速化(再掲) 	<p>73</p>

<p>第2-3 業務改革の推進</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <p>■新業務効率化プラン検討チームによる業務効率化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務のデジタル化・省力化（再掲） ・知的財産管理指針の策定（再掲） 	<p>73</p>												
<p>第2-4 職員の確保及び育成</p> <p>就職フェア等への参加</p> <table border="1" data-bbox="245 564 703 824"> <thead> <tr> <th>イベント等</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふるさと山口Uターン就職フェア</td> <td>山ロランドホテル</td> </tr> <tr> <td>YAMAGUCHEERS!!FES</td> <td>山口大学吉田キャンパス</td> </tr> <tr> <td>徳山高専キャリア・デー</td> <td>徳山工業高等専門学校</td> </tr> </tbody> </table>	イベント等	場所	ふるさと山口Uターン就職フェア	山ロランドホテル	YAMAGUCHEERS!!FES	山口大学吉田キャンパス	徳山高専キャリア・デー	徳山工業高等専門学校	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員採用に向けたPRを目的として、就職フェア等に参加 ・人材育成方針に沿った、外部機関への研修派遣や外部講師を活用した所内研修の計画的な実施 ・大学院博士後期課程職員修学助成制度により、3名の研究員へ助成し、うち1名が博士号を取得 ・研究職員の資質向上、研究テーマの選定・評価のための外部アドバイザー招聘の継続 	<p>74</p>				
イベント等	場所														
ふるさと山口Uターン就職フェア	山ロランドホテル														
YAMAGUCHEERS!!FES	山口大学吉田キャンパス														
徳山高専キャリア・デー	徳山工業高等専門学校														
<p>第2-5 コンプライアンスの確保及びリスクマネジメントの強化</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p>	<p>—</p>												
<p>第2-5 (1) 内部統制の強化及び法令遵守の徹底</p>	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営委員会や安全衛生委員会などを適切に開催 ・デジタル化ツールによる簿冊管理システムを活用した適正な文書管理（再掲） ・監事監査、内部監査の実施 ・規程に基づく研究開発に関わるコンプライアンス確保のための教育等の実施 	<p>77</p>												
<p>第2-5 (2) 情報セキュリティ対策の推進及び情報公開の徹底</p> <p>更新等を行ったネットワーク関連機器等</p> <table border="1" data-bbox="288 1727 703 2063"> <thead> <tr> <th>機器・システム名</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スイッチ用通信モジュール更新</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>ノンプログラミングデータベースシステム用サーバ更新</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>グループウェア（データベース）改修</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>事務用PC購入</td> <td>15台</td> </tr> <tr> <td>モバイル用PC購入</td> <td>1台</td> </tr> </tbody> </table>	機器・システム名	数量	スイッチ用通信モジュール更新	1式	ノンプログラミングデータベースシステム用サーバ更新	1式	グループウェア（データベース）改修	1式	事務用PC購入	15台	モバイル用PC購入	1台	<p>3</p>	<p>年度計画を概ね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員への職員教育の実施 ・全職員への情報セキュリティ教育の実施 ・ネットワーク関連機器の計画的な更新 ・事務用PCの計画的な更新 	<p>78</p>
機器・システム名	数量														
スイッチ用通信モジュール更新	1式														
ノンプログラミングデータベースシステム用サーバ更新	1式														
グループウェア（データベース）改修	1式														
事務用PC購入	15台														
モバイル用PC購入	1台														

第2-5(3) 利用者の安全確保及び職員の安全衛生管理	3	年度計画を概ね達成 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の定期的な保守・点検及び修繕・更新を計画的に実施 安全衛生委員会を毎月開催し、職員の安全と健康を確保 </div>	79
第2-5(4) 危機管理対策の推進	3	年度計画を概ね達成 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 自衛消防訓練による緊急事態時の役割及び手順の確認 </div>	81

【大項目】第3 財務内容の改善

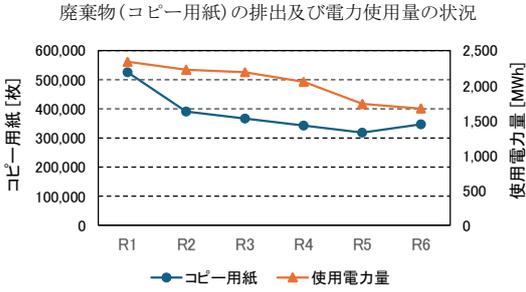
(評定：b 大項目加重平均値：3.0)

中項目 小項目 細項目	評定	評定の理由 主な取組	報告書																																				
第3-1 多様な財源の確保 <table border="1"> <caption>外部資金獲得状況(千円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>外部資金獲得状況(千円)</th> <th>評定値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H26</td><td>145,000</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>H27</td><td>145,000</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>H28</td><td>145,000</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>H29</td><td>145,000</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>H30</td><td>145,000</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>R1</td><td>105,000</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>R2</td><td>145,000</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>145,000</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>R4</td><td>145,000</td><td>4.5</td></tr> <tr><td>R5</td><td>105,000</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>R6</td><td>105,000</td><td>3.5</td></tr> </tbody> </table>	年度	外部資金獲得状況(千円)	評定値	H26	145,000	4.5	H27	145,000	4.5	H28	145,000	4.5	H29	145,000	4.5	H30	145,000	4.5	R1	105,000	3.5	R2	145,000	4.5	R3	145,000	4.5	R4	145,000	4.5	R5	105,000	3.5	R6	105,000	3.5	3	年度計画を概ね達成 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 機器整備や研究開発に係る外部資金の獲得(機器整備：5機器、研究開発：8件) 外部資金獲得金額は、R5年度からやや減少(6.1%減) 使用料・手数料、受託研究及び知的財産の実施料などによる自己収入の確保 </div>	82
年度	外部資金獲得状況(千円)	評定値																																					
H26	145,000	4.5																																					
H27	145,000	4.5																																					
H28	145,000	4.5																																					
H29	145,000	4.5																																					
H30	145,000	4.5																																					
R1	105,000	3.5																																					
R2	145,000	4.5																																					
R3	145,000	4.5																																					
R4	145,000	4.5																																					
R5	105,000	3.5																																					
R6	105,000	3.5																																					
第3-2 予算の効率的な執行	3	年度計画を概ね達成 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> R5年度事業費の実績の考慮と厳密な積算による経費の抑制 執行管理のため、上半期終了後に予算執行状況の集計・再配分を実施 業務のデジタル化・省力化の推進(再掲) 新草刈りロボット導入による除草業務委託の事務手続きや除草委託費の削減 有価物の売払いによる処分費用の抑制：公用車1台 </div>	84																																				

第3-3 剰余金の有効な活用	3	年度計画を概ね達成 ・必要性と実効性を検討し、優先順位付けを行い、以下の取組に主に充当 ①所内ネットワーク機器の改修 ②試験研究機器の修繕 ③施設・設備の改修・修繕等 ④研修等職員の育成、能力向上に資する取組	85
----------------	---	---	----

【大項目】第4 その他業務運営に関する重要事項

(評定：a 大項目加重平均値：3.5)

中項目 小項目 細項目	評定	評定の理由 主な取組	報告書
第4-1 施設設備の計画的な整備  <p>草刈りロボット エレベータの更新</p>	4	年度計画を十分達成 ・施設・設備の保守業務への計画的な予算配分 ・利用者が施設を利用する際の空調については室温を見ながら弾力的に運用 新 草刈りロボットの導入による継続的な環境維持 新 共用棟エレベータの老朽化に伴う更新	86
第4-2 環境負荷の低減  <p>廃棄物(コピー用紙)の排出及び電力使用量の状況</p>	3	年度計画を概ね達成 ・省エネ・省資源、ゴミの分別収集による古紙などの再資源化等の取組 ・電力使用量の「見える化」による省エネ行動喚起 ・施設・設備の省エネルギー型への更新	88

3 令和6年度に計画していた特筆すべき事項に関する取組状況

頁	特筆すべき事項	取組状況
p. 12 ～ p. 30	<p>①産業力強化に向けた新たなイノベーションの創出</p> <p><第1-1 産業力強化に向けた新たなイノベーションの創出></p> <p>県内企業が社会変革や社会経済情勢の変化に的確に対応し、本県産業の持続的な成長と発展を促進するため、ものづくりを中心とした産業集積や高度技術、産学公金の連携基盤を活かし、産業分野のデジタル化や脱炭素社会の実現等に貢献する新たなイノベーションの創出、更なる成長分野の育成・集積に向けた取組を、県や国の施策を踏まえながら積極的に展開する。これまでの取組により培われた産学公金や企業間の連携等を引き続き活用・促進し、オープンイノベーションを積極的に推進することにより、<u>県内企業における事業化を促進し</u>、以下の目標達成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションの推進による成長産業分野の事業化件数 15件 	<p><第1-1(1) 研究開発・事業化を支援する体制の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県の特性を活かした付加価値の高い成長産業の育成・創出を目指す<u>各種プロジェクトの取組を強化</u>するため、プロジェクト推進部内に「カーボンニュートラル推進室」を、イノベーション推進センター内に「オープンイノベーション推進チーム」をそれぞれ設置 <p><第1-1(2) 産学公金や企業間連携による研究開発・事業化の促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・39組の新たな研究開発グループが始動 ・新たに45件の提案公募型事業に採択 <p><第1-1(3) 数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションの推進による成長産業分野の事業化件数 24件 (<u>達成度 160%</u>)
P. 31 ～ P. 33	<p>②ものづくり力の高度化・ブランド化の推進</p> <p><第1-2 中小企業の「底力」の発揮に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施した基礎研究等を基盤に、県内企業の新技術の開発や研究開発力の強化、新事業展開等につなげるため、DXの活用や脱炭素化にも資するテーマや事業を中心に<u>応用研究や実用化研究に切れ目なく取り組む</u>。 ・研究開発成果については、各種研究会や企業訪問、学協会等で広く発信するとともに、共同研究・受託研究などにより<u>企業への移転を推進</u>する。 	<p><第1-2(1) 研究開発の推進とその成果の普及></p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口県産日本酒の高品質化・安定生産化を目的とした「やまぐち美味しい日本酒創出事業」でのテーマを含む4テーマを新たに開始 ・技術報告会の開催、研究報告等刊行物の発行、共同研究・受託研究実施などにより、企業への技術移転を推進 ・9社(17件)について、追加評価、関連商品開発、改良、設計変更等の支援を実施

頁	特筆すべき事項	取組状況
P. 52 ～ p. 54	<p>③多様化する県内企業ニーズへの対応 <第1-3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内企業のニーズを踏まえながら先端的な試験研究機器を計画的に整備し、その機器を有効に活用できる<u>仕組みや体制を確保</u>する。 ・ J I S等の規格のない製品の評価に関する支援事業を新たに開始し、<u>企業の製品開発力の向上を促進</u>するとともに、開放機器等の有効利用につなげる。 	<p><第1-3(2) 企業ニーズに対応した技術支援サービス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機器ニーズ調査の実施と、結果を反映した機器整備 (2 機器) ・ 遠隔地から3D機器の活用を促進する仕組みである、バーチャル3Dものづくり支援センターの運用を継続し、3Dプリンターによるオーダーメイド試験や3Dものづくり技術に関する技術者研修を実施 ・ J I S等の規格のない製品の評価に関する支援事業を新たに開始し、県内企業から製品の性能評価に関するテーマを募集し、3テーマを実施
p. 73	<p>④業務運営の改善及び効率化 <第2-3 業務改革の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R P Aの導入による定型事務作業の省力化を進め、<u>業務の効率化</u>を図る。 <p>※R P A (Robotic Process Automation) : ロボットによる業務プロセスの自動化</p>	<p><第2-3 業務改革の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R P Aやノンプログラミングデータベースシステム等によるDX推進に関する取組を継続し、時間外勤務集計システムの作成及び運用、電子帳簿管理システムの作成及び運用、公文書管理のための簿冊管理システムの作成及び運用、財務会計システムの機能改修による経費支出関連書類の電子化等を実施 ・ D X担当職員を含めた職員で構成される業務効率化プラン検討チームを編成し、業務の効率化に関する検討を実施
p. 86 ～ p. 87	<p>⑤施設設備の計画的な整備 <第4-1 施設設備の計画的な整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安定的なサービスの提供の基盤となる施設設備が効果的・効率的に活用されるよう計画的に整備するとともに、保守・修繕等をはじめ施設設備の長期的な保全に向けた取組を行い、<u>安全性と利便性の確保</u>を図る。 	<p><第4-1 施設設備の適切な管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保守業務への計画的な予算配分と執行 (防水・外壁改修工事、空調更新工事、エレベータ更新、点検・調査業務、公用車更新等) ・ 草刈ロボットの導入による継続的な環境維持

4 令和6年度の自己評価結果を受けて、令和7年度に実施する特筆すべき事項

① 産業力強化に向けた新たなイノベーションの創出

＜第1-1 産業力強化に向けた新たなイノベーションの創出＞

県内企業が社会変革や社会経済情勢の変化に的確に対応し、本県産業の持続的な成長と発展を促進するため、ものづくりを中心とした産業集積や高度技術、産学公金の連携基盤を活かし、産業分野のデジタル化や脱炭素社会の実現等に貢献する新たなイノベーションの創出や更なる成長分野の育成・集積に向けた取組を、県や国の施策を踏まえながら積極的に展開する。これまでの取組により培われた産学公金や企業間の連携等を引き続き活用・促進し、オープンイノベーションを積極的に推進することで、県内企業の研究開発や事業化を促進し、以下の目標達成に努める。

- ・イノベーションの推進による提案公募型事業の獲得件数 21件
- ・イノベーションの推進による成長産業分野の事業化件数 17件

② ものづくり力の高度化・ブランド化の推進

＜第1-2 中小企業の「底力」の発揮に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進＞

- ・これまで実施した基礎研究等を基盤に、県内企業の新技術の開発や研究開発力の強化、新事業展開等につなげるため、応用研究や実用化研究に切れ目なく取り組む。
- ・研究開発成果については、各種研究会や企業訪問、学協会等で広く発信するとともに、受託研究・共同研究などにより企業への移転を推進する。

③ 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化

＜第1-3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化＞

- ・持続的に地域課題の解決に向けた新たなテーマを発掘することにより企業の研究開発・事業化を推進する。
- ・材料や表面処理技術の開発等を目的とした分析評価に関する支援事業を新たに実施し、産業技術センター保有の表面分析装置や試料作製装置を用いた支援を通じて、県内企業及び産業技術センターの評価分析技術の高度化を図る。

④ 業務改革の推進

＜第2-3 業務改革の推進＞

- ・業務改善や経費削減を図るため、業務内容や処理手続を適宜見直すとともに、業務のデジタル化やDXを進めることで、省力化や迅速化、質の向上などの効率的かつ合理的な業務運営が行われるよう業務改革を推進する
- ・RPAの活用による定型事務作業の省力化を進め、業務の効率化を図る。

⑤ 施設設備の計画的な整備

＜第4-1 施設設備の計画的な整備＞

- ・安定的なサービスの提供の基盤となる施設設備が効果的・効率的に活用されるよう計画的に整備するとともに、保守・修繕等をはじめ施設設備の長期的な保全に向けた取組を行い、安全性の確保と利便性の維持を図る。

令和6年度決算

1 財務諸表

(1) 貸借対照表の要旨 (令和7年3月31日現在) (単位：百万円)

資産の部		負債及び純資産の部	
固定資産	5,281	固定負債	941
有形固定資産	4,946	流動負債	218
土地	1,001		
建物	3,725	【負債合計】	1,159
その他	220	資本金	6,375
無形固定資産	6	資本剰余金	△2,036
投資その他資産	329	資本剰余金	301
流動資産	262	損益外減価償却累計額	△2,336
現金及び預金	118	損益外減損損失償却累計額	△1
その他	144	利益剰余金	44
		前中期目標期間繰越積立金	43
		研究・業務運営充実積立金	-
		当期末処分利益	1
		【純資産合計】	4,383
資産合計 (※R5: 5,486)	5,543	負債・純資産合計	5,543

注) 四捨五入の関係で、計が合わないことがあります。

(2) 損益計算書の要旨 (令和6年4月1日～令和7年3月31日) (単位：百万円)

費用の部		収益の部	
経常費用	1,083	経常収益	1,070
業務費	335	運営費交付金収益	610
人件費	550	使用料・手数料収入	38
管理運営費	198	特許実施料	1
雑損	0	受託事業等収益	215
		補助金収益	60
		資産見返負債戻入	76
臨時損失	6	引当金見返に係る収益	69
(当期純利益)	(△14)	その他収益	1
		臨時利益	4
当期総利益	1	前中期目標期間繰越積立金取崩額	15
合計 (※R5: 1,102)	1,090	合計	1,090

注) 四捨五入の関係で、計が合わないことがあります。

2 決算報告書

(単位：百万円)

収入		支出	
運営費交付金等	818	業務費	279
自己収入	358	人件費	534
前年度繰越金	-	一般管理費	183
目的積立金取崩	15	施設費	194
合計 (※R5: 1,118)	1,191	合計	1,190
収支差額			1

注) 四捨五入の関係で、計が合わないことがあります。

令和5年度決算 [参考]

1 財務諸表

(1) 貸借対照表の要旨 (令和6年3月31日現在) (単位：百万円)

資産の部		負債及び純資産の部	
固定資産	5,275	固定負債	809
有形固定資産	4,954	流動負債	152
土地	1,001		
建物	3,749	【負債合計】	961
その他	204	資本金	6,375
無形固定資産	6	資本剰余金	△1,909
投資その他資産	315	資本剰余金	305
流動資産	211	損益外減価償却累計額	△2,214
現金及び預金	15	損益外減損損失償却累計額	△1
その他	196	利益剰余金	59
		前中期目標期間繰越積立金	0
		研究・業務運営充実積立金	49
		当期末処分利益	9
		【純資産合計】	4,525
資産合計 (※R4: 5,580)	5,486	負債・純資産合計	5,486

注) 四捨五入の関係で、計が合わないことがあります。

(2) 損益計算書の要旨 (令和5年4月1日～令和6年3月31日) (単位：百万円)

費用の部		収益の部	
経常費用	1,093	経常収益	1,102
業務費	373	運営費交付金収益	611
人件費	503	使用料・手数料収入	38
管理運営費	217	特許実施料	1
		受託事業等収益	196
		補助金収益	91
		資産見返負債戻入	103
臨時損失	0	引当金見返に係る収益	61
(当期純利益)	(9)	その他収益	1
		臨時利益	0
当期総利益	9	目的積立金取崩額	0
合計 (※R4: 1,376)	1,102	合計	1,102

注) 四捨五入の関係で、計が合わないことがあります。

2 決算報告書

(単位：百万円)

収入		支出	
運営費交付金等	742	業務費	287
自己収入	376	人件費	473
前年度繰越金	0	一般管理費	199
目的積立金取崩	0	施設費	149
合計 (※R4: 1,090)	1,118	合計	1,108
収支差額			9

注) 四捨五入の関係で、計が合わないことがあります。

令和6年度評価における項目別評価結果総括表

(大項目) (中項目) (小項目) (細項目)	中期計画 における 対象細項 目数	年度計画 における 対象細項 目数	細項目別評価の採点内訳 (個数)						細項目別 評価の評 点の平均 値	小項目 別評価 の評点	各小項目のウエイト		中項目別 評価 (加重平 均値)	各中項目のウエイト		大項目別 評価 (加重平 均値)	各大項目 のウエイ ト	全体評価 (加重平 均値)					
			5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	計			配分	考え方		配分	考え方								
全体評価	38	38	3	5	28	2	0	38	3.2														
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	25	25	3	3	17	2	0	25	3.3														
1 産業力強化に向けた新たなイノベーションの創出	4	4	2	2	0	0	0	4	4.5														
(1) 研究開発・事業化を支援する体制の強化	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.4	「体制の強化」 「研究開発・事業 化の促進」に重点 的に配分	a(4.2)	0.4									
新たなイノベーション創出への取組と、コーディネート体制の強化	1	1	0	1	0	0	0	1	4														
(2) 産学公金や企業間連携による研究開発・事業化の促進	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0	4	0.4												
産学公金や企業間連携を通じた、中小企業の研究開発・事業化の促進	1	1	0	1	0	0	0	1	4														
(3) 数値目標	2	2	2	0	0	0	0	2	5.0	5	0.2												
ア イノベーションの推進による提案公募型事業の獲得件数	1	1	1	0	0	0	0	1	5														
イ イノベーションの推進による成長産業分野の事業化件数	1	1	1	0	0	0	0	1	5														
2 中小企業の「底力」の発揮に向けたものづくり力の高度化・ブランド化の推進	8	8	1	1	5	1	0	8	3.3														
(1) 研究開発の推進とその成果の普及	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2	いずれも重要な取 組でありウエイト は等分に配分	b(3.2)	0.3									
応用研究、実用化研究の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
(2) 知的財産の取得と活用	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2												
研究開発成果の知的財産化とその普及	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
(3) 企業の技術革新の促進	2	2	0	0	2	0	0	2	3.0	3	0.2												
ア 各種技術研究会活動の活性化	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
イ 研究開発計画策定や資金獲得の支援	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
(4) 産業を支える人材の育成	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2												
技術セミナー等の開催及び小中学生等向けイベントの実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
(5) 数値目標	3	3	1	1	0	1	0	3	3.7	4	0.2												
ア 特許等の共同出願、使用許諾及び譲渡件数	1	1	0	1	0	0	0	1	4														
イ 研究開発に関する提案公募型事業を獲得し、実施した件数	1	1	0	0	0	1	0	1	2														
ウ 研究開発・技術支援が事業化(商品化)に至った件数	1	1	1	0	0	0	0	1	5														
3 「中核的技術支援拠点」としての更なる機能強化	13	13	0	0	12	1	0	13	2.9														
(1) 技術的課題の解決に向けた研究開発・技術相談	2	2	0	0	2	0	0	2	3.0	3	0.2							いずれも重要な取 組でありウエイト は等分に配分	b(3.0)	0.3			
ア 基礎研究	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
イ 技術相談	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
(2) 企業ニーズに対応した技術支援サービス	6	6	0	0	6	0	0	6	3.0	3	0.2												
技術支援サービス充実への取組	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
技術支援サービスの検証	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
ア 開放機器・依頼試験	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
イ 受託研究・共同研究	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
ウ 技術者研修	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
エ 新事業創造支援センターの効果的な活用	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
(3) 関係機関等との連携の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2												
県内企業ニーズへの対応のための他支援機関等との連携の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
(4) 積極的・戦略的な情報発信	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0	3	0.2												
積極的かつ効果的な情報発信	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
(5) 数値目標	3	3	0	0	2	1	0	3	2.7	3	0.2												
ア 技術相談件数	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
イ 開放機器・依頼試験の利用件数	1	1	0	0	1	0	0	1	3														
ウ 受託研究・共同研究の実施件数	1	1	0	0	0	1	0	1	2														

第2 業務運営の改善及び効率化	8	8	0	1	7	0	0	8	3.1										
1 機動性の高い組織体制の確保	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
機動性の高い組織体制の確保	1	1	0	1	0	0	0	1	4										
2 効果的・効率的な業務運営	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
業務及び事業の実効性を高める効果的・効果的な業務運営	1	1	0	0	1	0	0	1	3										
3 業務改革の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
業務のデジタル化・DX推進による業務改革の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3										
4 職員の確保及び育成	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
職員確保に向けた積極的な取組及び職能開発の計画的実施	1	1	0	0	1	0	0	1	3										
5 コンプライアンスの確保及びリスクマネジメントの強化	4	4	0	0	4	0	0	4	3.0										
(1) 内部統制の強化及び法令遵守の徹底	1	1	0	0	1	0	0	1	3	3	0.2								
内部統制の強化及び法令遵守の徹底	1	1	0	0	1	0	0	1	3										
(2) 情報セキュリティ対策の推進及び情報公開の徹底	1	1	0	0	1	0	0	1	3	3	0.2								
情報セキュリティ対策の推進及び情報公開の徹底	1	1	0	0	1	0	0	1	3										
(3) 利用者の安全確保及び職員の安全衛生管理	1	1	0	0	1	0	0	1	3	3	0.3								
利用者の安全確保及び職員の安全衛生管理	1	1	0	0	1	0	0	1	3										
(4) 危機管理対策の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3	3	0.3								
危機管理対策の推進	1	1	0	0	1	0	0	1	3										
第3 財務内容の改善	3	3	0	0	3	0	0	3	3										
1 多様な財源の確保	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
自己収入・自主財源の確保に向けた積極的な取組	1	1	0	0	1	0	0	1	3	3									
2 予算の効率的な執行	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
効果的な予算配分と効率的な予算執行	1	1	0	0	1	0	0	1	3	3									
3 剰余金の有効な活用	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
中長期的な視点に基づいた剰余金の有効活用	1	1	0	0	1	0	0	1	3	3									
第4 その他業務運営	2	2	0	1	1	0	0	2	3.5										
1 施設設備の計画的な整備	1	1	0	1	0	0	0	1	4.0										
計画的な保守・点検及び修繕・更新の実施	1	1	0	1	0	0	0	1	4	4									
2 環境負荷の低減	1	1	0	0	1	0	0	1	3.0										
資源の有効活用に向けた取組の強化	1	1	0	0	1	0	0	1	3	3									

※小項目がない中項目については、細項目別評価の評点により評価を行う。

第1-1 「成長産業の発掘に向けたイノベーションの創出」に関する評価において客観性を確保するための指標に基づく評価結果（令和6年度分）

◆1-1(1) 「研究開発・事業化を支援する体制の強化」に関する評価
・体制強化全般に係る評価基準

受託事業の実施すべき項目を達成した。(受託事業を問題無く終えた)	<input checked="" type="checkbox"/>	3点
・強化した体制の機能状況による加減点要素		
1-1(2)「産学公金や企業間連携による研究開発・事業化の促進」の評点が”2以下”である。	<input type="checkbox"/>	-1点
1-1(3)「数値目標」の評点が”2以下”である。	<input type="checkbox"/>	-1点
1-1(2)「産学公金や企業間連携による研究開発・事業化の推進」の評点が”5”または1-1(3)数値目標の評点の平均値が”5”である。	いずれかに該当	+1点
1-1(2)「産学公金や企業間連携による研究開発・事業化の促進」の評点が”4”および1-1(3)数値目標の評点の平均値が”4~4.5”である。		
以下の観点から、体制がさらに強化されたと判断できる場合 (上記加点を獲得した上で、さらに特筆すべき目覚ましい効果があった) ア) 新たな体制とその質的効果が顕著 イ) 質的効果を生み出した特徴ある活動 ウ) 体制やコーディネータの外部からの表彰	<input type="checkbox"/>	+1点

評点 **4**

◆1-1(2) 産学公金や企業間連携による研究開発・事業化の推進
◇3つの”活動の目安”

令和6年度における活動の評価	人数	活動の目安	活動実績	達成度
① 研究開発プロジェクト発掘数 ※(コーディネータ等+関係技術職員)1名あたり2件程度	21.0	42.0	39	0.93
② 提案公募型事業獲得件数 ※(コーディネータ等+関係技術職員)1名あたり1.5件程度	21.0	31.5	63	2.00
③ 提案公募型事業獲得の費用対効果 ※費用対効果=獲得資金/(受託経費+関係職員人件費)	-	268,561	555,593	2.07

(注) 上記については、専任職員は1人役、兼務職員は実態に応じた割合で計算した。

・活動全般に係る評価基準

3つの活動すべてが目安以上の実績で、かつそのうち2つ以上が目安の「1.5」倍以上の実績である	4点	<input type="checkbox"/>
3つの活動の実績が、それぞれ概ね目安程度にある	3点	<input checked="" type="checkbox"/>
3つの活動の実績の中に、著しく目安に届かない項目がある ※「著しく届かない」とは目安の「0.7」倍未満を指す	2点	<input type="checkbox"/>
・費用対効果による加減点要素		
費用対効果が「1.5 [※] 」以上である (※令和元年度提示ルールにおける「2.2」以上に相当)	+1点	<input checked="" type="checkbox"/>
費用対効果が「1.0」未満である	-1点	<input type="checkbox"/>

評点 **4**

◆1-1(3) 数値目標

項目	目標値	実績値	達成度	評点
ア イノベーションの推進による提案公募型事業の獲得件数	21	45	214%	5
イ イノベーションの推進による成長産業分野の事業化件数	15	24	160%	5

(評点の平均値 5)

(参考) 評点と達成度

5点:120%以上, 4点:100%以上~120%未満, 3点:90%以上~100%未満,
2点:70%以上~90%未満, 1点:70%未満